

一般社団法人コミュニティシネマセンター 2020年度(令和2年度)事業報告

1. 受託事業

[1] 映像アートマネージャー育成のためのワークショップシリーズ2020

(文化庁 令和2年度「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」)

継続的に実施している人材育成事業。シンポジウム(全国コミュニティシネマ会議)、上映者のためのワークショップ、「子ども(若年層)と映画」プログラム、Fシネマ・プロジェクトという4つのプログラムを柱とした。新型コロナウイルス感染拡大により、当初の予定通りに実施することが困難となったが、状況を注視しながらオンラインを活用するなど可能な形で実施、地域の上映活動を担う新たな人材を育成し、ネットワークの構築を進めた。

(1) 全国コミュニティシネマ会議の開催

実施日：2020年12月16日(水) 会場：ユーロライブ(東京) *オンラインによるライブ配信も実施

参加者：会場参加...109名[出演者・スタッフ含む] | オンライン参加...177名 合計286名

全国コミュニティシネマ会議2020は、「コロナ禍とミニシアター(上映者)」というテーマで、会場(ユーロライブ(東京・渋谷))とオンラインのハイブリッドで開催した。第一部では、国内のミニシアターやシネマテーク、自主上映などの上映関係者が出演、コロナ禍の上映現場の生の声を報告した。また、海外の状況として北米、フランス、韓国の状況について報告をきいた。また、ディスカッション「SAVE the CINEMA!」では、ミニシアター支援の活動を行ったSAVE the CINEMA、ミニシアター・エイド基金、ミニシアターパーク、仮設の映画館といった団体の人たちが登壇、自身の活動を振り返るとともに、コロナ後のミニシアターやコミュニティシネマのあり方について話し合った。

■報告「コロナ禍と映画上映 これまで・現在・これから」

出演者：

上映者の声：北條誠人[司会](ユーロスペース)、田井肇(シネマ5)、山下宏洋(イメーজフォーラム)、木全純治(シネマスコーレ)、林未来(元町映画館)、下地久美子(桜坂劇場)、土肥悦子(シネモンド)、石橋秀彦(豊岡劇場)、窪寺洋一(Denkikan)、栢田浩平(兵庫県映画センター)、菅原和博(シネマアイリス)、梶原俊幸(横浜シネマ・ジャック&ベティ)、田辺和寛(ほとり座)、長澤純(フォーラム)、詫間敬芳(ソレイユ)、宮崎善文(松本CINEMAセレクト)、中西香南子(川崎市市民ミュージアム)、野口由紀(Bunkamuraル・シネマ)、志尾睦子(シネマテークたかさき)、河本清順(シネマ尾道)、松本正道(アテネ・フランセ文化センター)

海外の事例：ニューヨーク/増淵愛子、フランス/坂本安美(アンスティチュ・フランセ日本)、韓国/キム・サンミン、ジユ・ヒ、チョン・サンジョン、チェ・ナギョン(韓国芸術映画館協会)*オンライン

■ディスカッション「SAVE the CINEMA!」

出演者：諏訪敦彦(映画監督/SAVE the CINEMA)、深田晃司(映画監督/ミニシアター・エイド基金)、渡辺祐一(配給会社東風/仮設の映画館)、村田敦子(配給会社ミモザフィルムズ/Help! The映画配給会社)、渡辺真起子(俳優/ミニシアターパーク)

佐藤美鈴[司会](朝日新聞)

(2) ディスカッション&ワークショップ

-若い作り手のための上映入門講座

実施日：2020年12月4日, 5日, 12日 会場：映画美学校(東京) *オンラインによるライブ配信も実施

参加者：会場参加...15名(定員10名) | オンライン参加...27名(定員30名)

若い映画の作り手を対象に、自ら配給宣伝を行ったインディペンデント映画の製作者や、ミニシアター支配人、自主上映主宰

者など現場のプロを講師に迎え、映画館での公開や地方での上映に必要な基本的な知識を学ぶ短期集中講座を開催、感染拡大防止のため、会場とオンラインのハイブリッドで実施した。関心は非常に高く、定員を上回る受講者を迎えることができた。

■12月4日「事例紹介—インディペンデント映画が劇場公開されるまで」

出演者：城真也(映画監督)、井上遼(プロデューサー)、前原瑞樹(俳優)、西原孝至(映画監督)

■12月5日①「映画上映に関する基礎知識—ミニシアターって何だ？」

出演者：岩崎ゆう子、小川茉侖(コミュニティシネマセンター)

■12月5日②「ミニシアター支配人に聞く①」

出演者：田中誠一(出町座)、宮崎善文(松本CINEMAセレクト)、志尾睦子(シネマテークたかさき)

■12月12日①「ミニシアター支配人に聞く②」

出演者：北條誠人(ユーススペース)、大槻貴宏(ポレポレ東中野)、長村亜紀(ミラクルヴォイス)

■12月12日②「フリーディスカッション」

出演者：城真也、井上遼、西原孝至、岩崎ゆう子、田中誠一、宮崎善文、志尾睦子、北條誠人、大槻貴宏
進行[全体]：四方智子(映画美学校)

—コミュニティシネマ・ネットワーク事業

ミニシアター地域交流上映会 横浜×尾道

■2021年1月23日(土) 会場：横浜シネマ・ジャック&ベティ

上映作品：『海辺の映画館〜キネマの玉手箱』(大林宣彦監督/2020年)

トーク出演者：河本清順(シネマ尾道)※オンライン、尾美としのり(俳優)※オンライン、北見秋満(ヨコハマ映画祭)、梶原俊幸[司会](シネマ・ジャック&ベティ)

■2021年3月21日(日) 会場：シネマ尾道

上映作品：『我が人生最悪の時』(林海象監督/1994年)

トーク出演者※トークはオンラインで実施：佐野史郎(俳優)、井浦新(俳優)、大西信満(俳優)、梶原俊幸、八幡温子(横浜シネマリン)、福島成人(ヨコハマフットボール映画祭)、河本清順[司会]

尾道と横浜が舞台の映画を相互の映画館で上映、まちの魅力発信を考え、シネマ・ジャック&ベティ(横浜)とシネマ尾道という二つの映画館の交流上映会を実施。上映後には横浜と尾道の上映関係者や俳優が出演し、双方のまちの魅力を伝えるとともに、それぞれの映画館や地域の映画上映がもつ魅力や課題を発見することができた。

—アートマネージメントワークショップ イン 東北

実施日：2021年1月23日(講座)、2月27日(上映会)

会場：オガールプラザ紫波町情報交流館(岩手県紫波町)

ワークショップ参加者：17名 上映会来場者：50人(受講者除)

■ワークショップ(1月23日)

- ・講義①「全国のコミュニティシネマの現状」岩崎ゆう子(コミュニティシネマセンター)※オンライン
- ・講義②「映画の仕事 興行・自主上映の実務」榎桁一則(みやこ映画生協)
- ・講義③「こどもと映画プログラム・シネマニワの活動」山崎樹一郎(シネマニワ代表)※オンライン

■上映会(2月27日) 『風の電話』(諏訪敦彦監督/2020年/139分) 出演：吉田基、生利望美

今回、沿岸部以外の地域・紫波町で初めての開催となった。紫波町では、この講座がきっかけとなって「シワキネマ」という上映会が始まったこともあり、ワークショップには、例年以上に多くの参加者を迎えることができた。意欲的な受講者が多く、興味を持って主体的に取り組み、上映会当日の運営も円滑に実践することができた。地域での映画鑑賞の場づくりに必要な基礎知識を学ぶとともに、人口4.4万人の岡山県真庭市でフランスをモデルにした映画鑑賞教育を実践している山崎樹一郎を講師に招き、中小都市における子ども向けの上映活動について学ぶワークショップを実施。実践のための上映会では『風の電話』を上

映、定員を越える来場者を迎えることができた。

(3) 「子ども(若年層)と映画」プログラム

-ネットワーク・ミーティング *2.自主事業[2](1)こども映画館 も併せて参照

「こども映画館」をさらに充実したものとするため、頻繁に子供向けの上映を実施している上映者のネットワークをつくり、コロナ禍での子ども向け上映の実施状況や対策などの情報交換を行った。

(4) Fシネマ・プロジェクト

予定していたフィルム上映会は、全国コミュニティシネマ会議に合わせて実施する計画であったが、新型コロナウイルス感染拡大により、実施を見合わせることにした。(映写技師養成ワークショップは休止している)

[2] 「映画上映活動年鑑2020」の作成 (文化庁 令和2年度「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」)

「映画上映活動年鑑2020」内容

I 映画館での上映

(1)概況 (2)公開本数・公開作品 (3)諸外国との比較 (4)都道府県別概況

II 公共上映

[1] 公共の映画専門施設(シネマテーク)及び上映事業を行う美術館など

[2] 上映事業を行っている公共ホールなど

III 特集：コロナ禍の中のミニシアター・上映者

1. 上映者たちの言葉 [2020年12月16日]

(1)ミニシアター

(2)シネマテーク、自主上映など

採録：ディスカッション「SAVE the CINEMA！」

2. コロナ禍の中の映画祭

3. 海外の状況

(1)アメリカ (ニューヨーク)

(2)フランス

(3)韓国

IV 資料 都道府県別上映施設一覧

V 上映に関わる用語集

[3] アートハウス・プロジェクト

～トーク・イベント等の実施と配信によるミニシアター・コミュニティとオンライン・プラットフォームの形成

(文化庁令和2年度戦略的芸術文化創造推進事業「文化芸術収益力強化事業」)

(1) 全国のアートハウス（ミニシアターやシネマテーク等）の上映関連イベントのプラットフォーム

「アートハウスプレス Arthouse Press/藝術電影館通信」 arthousepress.jp の開設（2021年1月）

全国各地で展開される上映関連イベントや、映画祭・特集上映など特別な映画上映の情報を紹介、上映だけじゃない、映画をより深く知り、愛するための、アートハウスの魅力を伝える。

【サイトの概要】

EVENTS |

全国のアートハウスで行われているイベント（トークやレクチャー等）や企画（特集上映や映画祭）を紹介。

THEATERS |

全国各地のアートハウス[ミニシアターやシネマテーク、定期的に上映を行っている自主上映団体]、約150館（団体）を地域別に掲載

ONLINE（配信情報） |

アートハウスプレスがおすすめるトークやレクチャー、イベントの配信ページ
オンライン上で視聴が可能な収録動画を掲載

ARTICLES+REPORTS | イベントのレポートや採録、映画評、アートハウスに関する論考等を掲載

(2) 独自のオンライン+リアルイベントを実施⇒一部はArthouse Pressで配信

例

- フランス映画の現在
 - オリヴィエ・ペール(アルテ・フランス・シネマ)/セルジュ・ボゾン監督トーク（※映像 10月15日）
 - クレモン・ロジェ氏(映画批評家)+坂本安美氏トーク（※リアル 10月27日）
- 映画ミーツ浪曲
 - シネマ5（9月22日）
 - 高崎電気館（11月15日）
 - 深谷シネマ（11月17日）
 - 松本CINEMAセレクト [まつもと芸術館]（2021年1月10日）
 - 桜坂劇場 [那覇]（1月16日）
- 日韓交流企画－仁川インディペンデントフィルム・ツアー
 - ～映画上映+韓国と日本の観客&映画館&韓国の監督が参加するオンライントーク
 - 横浜シネマ・ジャック&ベティ×シネマテークたかさき×仁川[インチョン]ミリム劇場（11月14日）
 - 大阪シネ・ヌーヴォ×仁川ミリム劇場（12月23日）
- ミニシアターパーク協力企画
 - 俳優村上淳がフェリーニを語る（11月23日|シネマ5[大分]）
 - 深田晃司監督（リアル）+斎藤工さん（オンライン）トーク(12月4日|鹿児島ガーデンズシネマ)
- ミニシアター交流上映会 尾道×横浜
 - 横浜シネマ・ジャック&ベティ：『海辺の映画館 キネマの玉手箱』上映+シネマ尾道とトーク（1月23日）

自主事業

[1] SAVE the CINEMAプロジェクト

2020年4月、新型コロナウイルスの影響が拡大する中、ミニシアターを救うためにできることを考え実現するため「SAVE the CINEMA」を結成、4月6日、国にミニシアターへの支援を求める要望書を提出するとともに、この要望書への賛同を求める署名活動を開始、活動を本格的にスタートさせた。当初より、ミニシアター・エイド基金と連携するとともに、2020年5月には、演劇緊急支援プロジェクト、SaveOurSpace（音楽/ライブハウス）との共同アクション「We Need Culture」もスタートし、省庁への要請や国会議員との懇談、勉強会等、積極的に活動を展開しつづけている。田井肇、北條誠人、志尾睦子、松本正道、岩崎ゆう子がSAVE the CINEMAの呼びかけ人として参加、コミュニティシネマセンターは、SAVE the CINEMAのメンバーとしてミーティングに参加、関連省庁や国への要望書の提出、要望を実現するためのロビー活動にも参加、令和2年度文化庁第2次補正予算の「文化芸術活動の継続支援事業」や第3次補正予算の「Arts for the Future！」事業の成立に際して映画館・上映者側のニーズを伝えるなど、積極的に関与し続けている。

下記の法律・制度に関する講座も実施、好評を得ている。

-コミュニティシネマのコンプライアンス講座～コミュニティシネマをめぐる労働環境とハラスメントを考える

実施期間：2020年8月21日, 9月24日, 10月22日, 11月26日(計4回) オンラインでの実施

講師：馬奈木巖太郎(弁護士) 参加者：30名

ミニシアター、上映団体が考えねばならないコンプライアンスとは何か。必要なガバナンスとは何か。専門家の話を聞き基本的な知識を得るとともに、自身の現状を見直し、対策を考える講座を実施した。

-コミュニティシネマの[文化芸術と法律]講座～上映者・映画館のための「文化芸術基本法」と「劇場法」の基礎知識

実施期間：2021年3月15日 オンラインでの実施

講師：福島明夫(芸能実演家団体協議会常務理事), 馬奈木巖太郎(弁護士), 西原孝至(SAVE the CINEMA、映画監督)

参加者：54名

上映者自身が求める上映支援制度の実現に向けて、日本の文化政策の基本である「文化芸術基本法」、その後つくられた「劇場法」について学びながら、法律と映画館の関係について、専門家とともに考える講座を実施した。

[2] シネマテーク・プロジェクト/Fシネマ・プロジェクト関連企画

(1) こども映画館

新型コロナウイルスの影響で、当初予定していたいくつかの上映会が延期・中止となる中、下記の2会場での上映を実施することができ、多くの来場者を迎えることができた。

- 「スクリーンでみる日本アニメーション！」(国立映画アーカイブ共同事業)

上映会「こども映画館」の実施 合計2会場 観客合計198人(4回上映)

ほとり座(富山) 実施日：2020年7月3日 観客数：48人(1回上映)

上映作品：『パンダコパンダ』『パンダコパンダ雨ふりサーカス』

パフィオうわじま(愛媛) 実施日：2020年9月23日 観客数：150人(3回上映)

上映作品：『パンダコパンダ』『パンダコパンダ雨ふりサーカス』

- ウェブサイト「こども映画館」の運営・更新

[3] 映画の巡回/特集上映会の開催

(1) 映画/批評月間《フランス映画の現在》vol.1 & vol.2 の巡回 (アンスティチュ・フランセ 共同事業)

アンステイチュ・フランセが、フランスの映画メディア、批評家、専門家、プログラマーと協力し、最新のフランス映画を選びめぐり、紹介する特集「映画/批評月間～フランス映画の現在をめぐって」。

コミュニシネマセンターでは、「リベラシオン」のジュリアン・ジュステール氏によるセレクション(vol.1)から11作品、ARTE France Cinémaディレクターのオリヴィエ・ペール氏によるセレクション(vol.2)から10作品を選び、広島、横浜、東京の3会場で上映会を実施した。同企画の認知が広まり、観客数は増加しつつあり、vol.3の巡回に向けて手ごたえを感じている。

Vol.1

『ポール・サンチェスが戻ってきた！』パトリア・マズィ(2018) 『20年後の私も美しい』ソフィー・フィリエール(2018)
 『マイ・レボリューション』ジュディット・デヴィス(2019) 『ソフィア・アンティポリス』ヴィルジル・ヴェルニエ(2018)
 『ワイルド・ボーイズ』ベルトラン・マンディコ (2018) 『僕らプロヴァンシアル』ジャン＝ポール・シヴェラック(2018)
 『宝島』ギヨーム・ブラック(2018) 『ジャン・ドゥーシェ、ある映画批評家の肖像』F・アジェージュ、G・ナミュール、V・アセル(2017)
 ギイ・ジル特集 『海辺の恋』(1963) 『オー・パン・クペ』(1967) 『地上の輝き』(1969)

Vol.2

『アリスと市長』ニコラ・パリゼール(2019) 『君は愛にふさわしい』アフシア・エルジ(2019)
 『リベルテ』アルベール・セラ(2019) 『シノニムズ』ナダヴ・ラビド(2018)
 『見えない太陽』アンドレ・テシネ(2019) 『ティップ・トップ ふたりは最高』セルジュ・ボゾン(2013)
 『マダム・ハイド』セルジュ・ボゾン(2017)
 ジャン＝ピエール・モッキー特集 『今晚おひま？』(1959) 『言い知れぬ恐怖の町』(1964) 『ソロ』(1970)

巡回：

広島市映像文化ライブラリー(2020年6月19～28日, 9月19日～10月4日)
 観客数 6月：473人(1回平均30人) 9月：1255人(1回平均45人)
 横浜シネマ・ジャック&ベティ(2020年11月14～27日)
 観客数 713人(1回平均21.6人)
 ユーロスペース(2021年2月20日～3月5日)
 観客数 2155人(1回平均55.3人)
観客数 合計4596人

(2) ジョージア映画祭

昨年度より巡回している「ジョージア [グルジア] 映画祭」、2020年度は2会場に巡回した。

シネマ5[大分](2020年10月～2021年1月、10/20, 11/17, 12/15, 1/19 4回)

上映作品：『映像』『ケトとコテ』『少女デドゥナ』『西暦2015年』『ブラインド・デート』『メイダン 世界のへそ』『少年スサ』

※はらだたけひで氏トークを実施

観客数 94人

神戸映画資料館(2020年12月)

上映作品：『ケトとコテ』『大いなる緑の谷』『スヴァネティの塩』+ 短篇『私のお祖母さん』『少女デドゥナ』

※サイレント映画演奏付上映

観客数 101人

(3) 所蔵フィルムの上映、巡回、配給会社作品の上映協力など

フレデリック・ワイズマン監督作品(神戸映画資料館にて毎月上映)や、その他、当センターが保有する作品の貸出を行った。

[4] その他の事業

(1) 会員相互割引サービス

コミュニティシネマセンター各加盟館の会員証を提示することにより相互に鑑賞料金の割引を実施。

(2) ウェブサイトのリニューアル、会員制度の充実、見直しなど

コミュニティシネマセンターのウェブサイトやSNSを活用し、積極的に広報活動を行う。

会員制度のさらなる充実を期し、会員の増加をはかるとともに、新しい会員制度を検討する。

(3) コロナ関連の助成事業に関する情報共有など

文化庁や経済産業省等のコロナ対策支援事業に関する情報を会員を中心に情報共有した。